

自己評価報告書

平成23年 5月20日現在

機関番号：28001

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20320034

研究課題名（和文） 御冠船踊りの研究-対中日外交の場に生成された琉球の身体-

研究課題名（英文） A Study of Ryukyuan Court Dance : On the Ryukyuan Corporality formed in the Diplomatic Context with China and Japan

研究代表者

板谷 徹 (ITAYA TORU)

沖縄県立芸術大学・大学院芸術文化研究科・教授

研究者番号：20130867

研究分野：民族舞踊学

科研費の分科・細目：芸術学、芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：芸能、御冠船踊り、近世琉球、薩摩、中国

1. 研究計画の概要

近世琉球の王府の芸能であった御冠船踊りは、王府における鑑賞よりはむしろ対中国、日本（薩摩）との外交儀礼（御膳進上）に供されることを目的として生成された。中国と日本の二重の支配下にあった琉球にとって芸能は、中国における食卓を飾る侑食楽である以上に、琉球の自己表象を示す手段であった。本研究課題は、国王を冊封する勅使を饗応する場と芸能、また薩摩上国、江戸立の王子使者が薩摩藩主に対して行う御膳進上と芸能の実態を明らかにし、また芸能の内容を検証することにより、いかにして芸能を近世琉球の自己表象としたかを解明する。

2. 研究の進捗状況

江戸立については、天保3年の江戸薩摩藩邸における芸能を描く『琉球人坐楽之図』の作者、熊本藩御用絵師である杉谷行直の新資料を熊本県立美術館に見出して杉谷の作画姿勢に信頼すべき記録性が確認され、また江戸立に帯同した、中国語による演劇である唐躍の台本『琉球劇文和解』（東京大学図書館蔵）が上演台本ではなく、おそらく薩摩藩主島津重豪の指示によって作成されたものであることが上海戯劇学院の研究者との共同研究と早稲田大学の古屋昭弘氏の協力によって実証された。またこれらの背景をなす王子使者の御膳進上の実態、対薩摩との関係において芸能上演に拘泥する王府の姿勢から、王府にとっての芸能の役割が明らかになった。他方の冠船については、尚家文書の解読により、冠船儀礼（諸宴）における芸能上演の実態が解明され、芸能が故事として、中国に対して琉球の開關神話を示すものであることが判明した。

3. 現在までの達成度

おおむね計画通りに進行している。

4. 今後の研究の推進方策

これまでの外交儀礼という芸能上演の環境の研究に加えて、自己表象としての芸能の分析を最終年度の課題として予定している。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計9件）

- ① 板谷徹、金城厚、細井尚子、図巻「琉球人舞楽御巻物」の芸能史的考察、沖縄県立博物館・美術館、博物館紀要、査読無、3、2011、53-68
- ② 板谷徹、近世琉球における王子使者と芸能-芸能上演の場をめぐる一考察-、演劇映像学2010、査読無、第4集、2011、141-162
- ③ 板谷徹、琉球使節の芸能を描く絵師-熊本藩御用絵師杉谷行直の場合-、沖縄県立芸術大学紀要、査読無、18、2010、129-146
- ④ 板谷徹、親雲上の鬚-御冠船踊りににおける芸の前提-、ムーサ、査読無、11、2010、85-92
- ⑤ 板谷徹、近世琉球の対薩摩関係における芸能の役割、民族藝術、査読有、25、2009、111-118

〔学会発表〕（計0件）

〔図書〕（計1件）

- ① 板谷徹、榕樹書林、交錯する琉球と江戸の文化-唐躍台本『琉球劇文和解』影印と解題、2010、202

〔産業財産権〕

○出願状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕